【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第１区分
【発行日】令和1年5月9日(2019.5.9)

【公表番号】特表2018-511800(P2018-511800A)
【公表日】平成30年4月26日(2018.4.26)
【年通号数】公開・登録公報2018-016
【出願番号】特願2017-549689(P2017-549689)
【国際特許分類】
Ｇ０１Ｎ　7/00　(2006.01)
Ｇ０１Ｎ　21/3504　(2014.01)
Ｇ０１Ｎ　33/14　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０１Ｎ　7/00　Ｂ
Ｇ０１Ｎ　21/3504
Ｇ０１Ｎ　33/14

【手続補正書】
【提出日】平成31年3月29日(2019.3.29)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３０】
サンプルの体積膨張を生じさせるためにピストンを採用している炭酸化測定装置の別の非限定的な例が、参照によってその全体が本明細書に援用される、Ｗｉｅｌａｎｄらによる米国特許第４，２７６，７６９号に記載されている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３８】
サンプルは、入口１０１ａを通ってチャンバ１０１内に導入され得、測定後は出口１０１ｂを通過し得る。チャンバ１０１は、概して筒型の形状を有し、円形の断面積を有していることがある。内部要素、すなわち、コリメータレンズ１０５、フィルタ１０６ａ及び１０６ｂ、チョッパ１０７、及び集束レンズ１０８は、チャンバ１０１の内径に概ね適合するように形状を円形とすることができる。コリメータレンズ１０５は、源１０２からの赤外放射をコリメートする。集束レンズ１０８は、放射物を検出器１０３に集中させる。レンズ１０５及び１０８は、典型的には、サファイア又はゲルマニウムのレンズである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６０】
洗浄が終了すると、分析が開始する。ピストンが第１の停止まで下方に移動し、その後第２の停止まで移動する。この間、撹拌器は連続的に作動している。サンプルにおける微粒子（例えば、パルプ）の含有量が多い場合、フィルタの目が詰まりやすくなる。これに

より、測定チャンバ内の圧力が低下する傾向にあることがある。サンプル充填中の圧力を確認すること。ＰＦＤを使用する場合、圧力は５ｂａｒ（７０ｐｓｉ）を下回るべきではない。完全に目詰まりした場合、フィルタと測定チャンバとの間のホース及び測定チャンバ自体の中で泡及び気泡が形成される。

【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６６】
以下の表１に、缶入りのＰｅｐｓｉ（登録商標）ブランドの清涼飲料水に基づく、単一及び多重実験室検証（single-and multi-laboratory validation）データを示す。缶を使用した多重実験室において、平均ガス体積が３．６及び２％　ＲＳＤが１％（標準的なＣａｒｂｏＱＣ手順、ＴＭ２００．０８２で測定）のとき、この手順（ＡＭＳ－００１）により測定される炭酸化は、缶が冷蔵されている状態で、２％　ＲＳＤが２．７１％で平均ガス体積が３．４となることが予期される。単一実験室の結果も同様である。ＴＭ２００．０８２によれば２％　ＲＳＤが１．０７％で平均ガス体積が３．６２、ＡＭＳ－００１によれば２％　ＲＳＤが２．２６％で平均ガス体積が３．４３である。